

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成17年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/390
Right	

1. 口腔健康臨床科学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	柿澤 卓	(口腔外科学分野)	非進展口腔癌に対する予後推測因子(A98-0470-8)
	槇石武美	(歯科保存学分野)	抜髄および感染根管治療後の根管充填と再治療に関する臨床統計
助 授 授	安達 康	(歯科補綴学分野)	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A83-0530-1)
	堀田宏巳	(歯科補綴学分野)	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A83-0530-1)
	高野正行	(口腔外科学分野)	粘膜染色による口腔粘膜疾患の診断 (A98-0470-13)
	末石研二	(歯科矯正学分野)	先天性疾患の歯科矯正治療に関する研究 (A02-0590-2)
	大多和由美	(小児歯科学分野)	外傷幼若永久歯における電氣的閾値の経時的変化 (A87 - 0450-4)
講 師	古澤成博	(総合歯科学分野)	難治性根尖性歯周炎の研究
	近藤祥弘	(歯科保存学分野)	歯内療法処置に応用される材品に関する研究
	松井 隆	(口腔外科学分野)	口腔外科領域における偶発症の検討
	野呂明夫	(歯科保存学分野)	口腔リハビリ器具による表情筋機能療法
	森山貴史	(歯科保存学分野)	新しい歯周治療技術の開発に関する研究
	関根秀志	(口腔インプラント学分野)	歯科インプラント上部構造の力学特性の解明 歯根膜受圧感覚特性の解明
	望月清志	(小児歯科学分野)	永久歯萌出遅延歯の処置法
	辻野啓一郎	(小児歯科学分野)	乳歯形態異常, 歯数異常の永久歯列へ及ぼす影響
助 手	宮崎晴代	(歯科矯正学分野)	歯の喪失原因を探索?特に咬合, 唾液緩衝能と唾液量, 口腔衛生習慣の影響について? (A90-0590-1)
	福田謙一	(歯科麻酔学分野)	鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎形成術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する前向き研究 (A04-0500-10)
	山 満	(口腔外科学分野)	初期口腔癌の診断と治療
	高崎義人	(口腔外科学分野)	末梢神経の障害と再生に関する研究
	横山葉子	(口腔外科学分野)	症候群と顎嚢胞との関連 (A98-0470-11)
	三宅菜穂子	(歯科補綴学分野)	補綴材料への口腔内細菌の吸着に関する実験的研究 (A05-0792-5)
	金井由起	(歯科補綴学分野)	唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響 (HRC5A03)
	笠原正貴	(歯科麻酔学分野)	歯冠色修復材料の表面処理方法と接着性に関する研究 (A99-0520-1)
	瀬田修一	(口腔外科学分野)	口腔顔面痛に対する漢方薬の応用 (A01-0500-12)
	田口達夫	(口腔インプラント学分野)	顎顔面外傷の原因による臨床的特徴
林 正輝	(歯科矯正学分野)	インプラント治療の臨床評価 矯正歯科臨床における予定外来院の実態調査	

	井上 敬介	(歯科補綴学分野)	可撤性局部義歯の診断と診療計画 (A85-0530-1)
	長谷川洋人	(歯科補綴学分野)	無口蓋義歯の適応基準 (A00-0510-1)
	海老原 環	(歯科矯正学分野)	小臼歯 4 本抜歯で矯正治療を行った 24 歯治療例の咬合圧分布について
	細川 壮平	(総合歯科学分野)	睡眠時無呼吸症候群の検討
	高久勇一朗	(口腔外科学分野)	歯科入院患者の感染症に関する統計
	齋田菜緒子	(歯科麻酔学分野)	ラリングマスクと挿管チューブの術後咽頭痛の比較
	小貫 瑞穂	(総合歯科学分野)	咬合機能回復についての検討
病院助手	松本 信哉	(歯科保存学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	水戸部明子	(歯科保存学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	井田 篤	(歯科補綴学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	桑山 真寧	(口腔外科学分野)	ヒト口腔カンジダ菌に関する検出・同定に関する研究
	今井 崇之	(口腔外科学分野)	外来口腔外科処置の臨床統計
	大山 定男	(口腔外科学分野)	歯科治療における出血性素因患者の臨床的研究
	藤田 佳子	(口腔外科学分野)	顎変形症患者におけるオトガイ神経知覚鈍麻に関する研究
	関根亜理紗	(口腔外科学分野)	顎矯正手術のクリニカルパスに関する研究
	渡辺 玲子	(口腔外科学分野)	水道橋病院口腔外科における口腔良性腫瘍の臨床統計
	伊藤 哲平	(口腔外科学分野)	新しい骨接合素材の安定性について
	山村 哲夫	(口腔外科学分野)	水道橋病院口腔外科における高齢者の臨床統計
	金子かおり	(小児歯科学分野)	障害児、低年齢児の歯科治療
	谷田部純子	(歯科麻酔学分野)	全身麻酔の不安に対する麻酔情報提供の効果
	小川 志保	(歯科麻酔学分野)	フェンタニルとプロポフォールとの相乗効果に関する検討
	半田麻里子	(歯科麻酔学分野)	炭酸ガス負荷と麻酔薬の種類が口腔内組織血流量に及ぼす影響
	松崎 文頼	(口腔インプラント学分野)	インプラント治療の臨床評価
	大迫 美穂	(総合歯科学分野)	X 線写真の画像評価についての検討
	関根珠里亜	(総合歯科学分野)	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
	根本 詩子	(総合歯科学分野)	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
	早川 裕記	(総合歯科学分野)	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
大学院生	山田 清貴	(口腔外科学分野)	口腔バイオフィーム感染予防・治療に対する負電荷
専攻生	岡村 大器	(口腔外科学分野)	下顎第三臼歯の萌出様態による第二大臼歯に対する影響
	庵原 義明	(歯科麻酔学分野)	歯科恐怖症患者の背景因子の分析

2. 成果の概要

歯科保存学分野

1) EMDOGAIN を用いた rootcoverage の一症例

歯周治療を行うに当たって、歯肉退縮などによって生じた歯根露出は、知覚過敏や審美障害、付着の喪失といった問題を引き起こす。この歯根露出を改善する方法として、主に歯周形成外科が行われる。露出根面を被覆する根面被覆 (rootcoverage) 法には、歯肉弁側方移動術、歯肉弁歯冠側移動術、遊離歯肉移植術、結合組織移植術、GTR 法などがあるが最近、エナメルマトリックス・デリバティブ (エムドゲイン; 以下 EMD と略す) を用いた方法も報告されている。今回我々は、rootcoverage に EMD を応用したところ良好な結果が得られた。

患者は 25 歳女性。Non-smoker。主治医よりの #44 rootcoverage の依頼にて来院した。患者はブラッシング時の歯肉疼痛を自覚していた。#44 には根面露出が存在し周囲歯肉には著明な炎症が認められた。歯肉退縮は MGJ を越えていたが歯間部の歯槽骨や付着の喪失は無く Miller の分類で Class II であった。当初、結合組織移植による rootcoverage を企図し患者に処置の必要性、術式の概要、リスクなどを説明し、同意を得たうえで手術を行った。まず、浸潤麻酔下に #44 に粘膜弁を形成して受容床作成後、上顎右側小臼歯部口蓋側より結合組織の採取を試みたが失敗した。そこで急遽、EMD を併用した歯肉弁歯冠側移動術に術式を変更することを考え、患者に説明のうえ同意を得た。

結合組織移植のため形成していた粘膜弁をさらに根尖側寄りに拡張し、歯肉弁が十分に歯冠側に移動できることを確認したうえで、EMD を応用した。EMD 応用に当たっては、まず根面に対して徹底的な rootplanning を行った後 36% リン酸溶液にて根面処理を行った。そして、生理食塩液にて根面洗浄後直ちに EMD ジェルの塗布を行った。粘膜弁を歯冠側に移動させ、露出根面を歯肉弁で被覆後、乳頭貫通懸垂縫合にて縫合を施した。術後 3 週間目に抜糸を行った。その後経過観察を行っていたが、残存していた頬小帯により歯肉退縮が再発する兆候が認められたので、術後 5 ヶ月目に頬小帯切離移動術による追加手術を行った。術後 8 ヶ月目の観察では、根面露出の再発も自覚症状もなく、患者は問題なくブラッシングを行っている。

今回我々は、rootcoverage に際して EMD を併用した歯肉弁歯冠側移動術を行い、良好な結果を得た。今回の症例を通じ、rootcoverage に EMD を応用することの有用性が示唆された。今後さらに症例を重ね、術式の改善を図ると共に結合組織移植との併用など他の術式への展開も試みる予定である。

歯科補綴学分野

1) 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響 (HRC5A03)

本研究はヒドロキシアパタイト表面に対する唾液タンパクと口腔内細菌の吸着、ヒドロキシアパタイト表面へのレーザー照射による唾液タンパクと口腔内細菌の吸着阻止効果を明らかにすることを目的とし、これまでゼータ電位の測定および SEM、AFM について検討してきた。レーザーには GaAlAs 半導体ダイオードレーザー LD15 (波長: 810nm, Dentek Laser Systems Production 社製) を使用し、照射条件は 6.1Watt60sec、エネルギー密度 0.0238J/m² とした。

コントロール群とレーザー照射群の SEM 像ではいずれも多数の研磨傷が観察され、差異はみとめられなかったが、AFM3 次元表示 (断面プロファイル) 像ではコントロール群に比べレーザー照射群で研磨傷先端が丸くなっていた。ゼータ電位ではレーザー照射前後で、コントロール群で -8.0mV (± 2.0 , n=9)、レーザー照射群で -8.4mV (± 1.7 , n=6) となり、有意差は認められなかった。接触角はレーザー照射前後を比較するとレーザー照射前 ($29.5^\circ \pm 4.9$, n=37) よりもレーザー照射後 ($27.5^\circ \pm 4.08$, n=14) のほうが小さくなる傾向が認められた。

電気泳動装置を用いたアパタイト表面へのBSAの吸着実験後のゼータ電位ではレーザー照射の有無にかかわらず吸着実験前よりも負に大きな値を示した。

口腔外科学分野

1) 下顎智歯抜歯は口腔外科において最も多く行われており重要な手術の一つであるが、その多様性から時として種々の合併症を呈することがある。その中でオトガイ知覚障害は回復に長期を要したり、回復困難となることもあり問題となる。

そこで今回われわれは、当科において下顎智歯抜歯を行い、術後にオトガイ神経知覚障害が出現した症例についての検討を行った。

症例は平成13年1月から平成16年12月までの4年間に当科で下顎智歯抜歯を行い、術後にオトガイ神経知覚障害が発生し、検索しえた52例を対象として行った。患者は男性10例、女性42例で、年齢は21歳から70歳で平均年齢は35.3歳であった。術後に患者が麻痺の自覚症状を訴えた場合をオトガイ神経知覚障害とした。知覚障害の発現時期は術翌日が36例、2日目以降16例であり発現時期に差が認められた。知覚障害を発生した智歯抜歯の抜歯理由としては、智歯周囲炎やレントゲン上智歯周囲に透過像など病変が認められる場合などを症状ありとした場合、なんらかの症状が認められたものが30例、矯正上の理由によるものが5例、症状が認められなかったのは12例であった。

知覚障害発現後、回復し終了を確認できたのは32例で、知覚障害の発現で回復終了した患者はすべて6ヶ月以内であった。

歯科矯正学分野

1) Hemifacial Microsomia の表情筋および咀嚼筋活動の特性

我々はHemifacial Microsomiaと診断された小児の表情筋および咀嚼筋活動を明らかにする目的で、被験者10名に対し表面電極を用いて筋電図積分値を導出し、解析した。その結果、Hemifacial Microsomiaを有する患者は形態のみならず、表情筋および咀嚼筋活動において健常児とは明らかに異なり、大きな左右差を認めた。本症の治療では形態的改善に加え、機能的改善の必要性が高いことが示唆された。

歯科学報 105(4), 383~397, 2005

2) Orthodontic evaluation of eight cases in Beckwith-Wiedemann syndrome,

Beckwith-Wiedemann syndromeは1969年にBeckwithが、またWiedemannが1964年に報告した、臍ヘルニア、巨舌、巨人症を主徴とする過成長症候群である。Beckwith-Wiedemann syndromeと診断された8名の患者について歯科矯正学的検討を加えた。頭部エックス線規格写真分析から、共通する問題は、垂直方向の問題(開咬、下顎の時計回り回転)であり、前後的問題は共通していなかった。永久歯列萌出前に外科治療による巨舌の改善が行われたかどうか、不正咬合のタイプに関係する可能性が示唆された。

Orthod Waves 65(1), 9~14, 2006.

3) 歯の喪失原因を探る—特に咬合、唾液緩衝能と唾液量、口腔衛生習慣の影響について—

我々は咬合と歯牙喪失の関係に着目し 8020 達成者の咬合および顎顔面形態が正常に近い事、8020 達成者の咬合力が若年者と変わらないこと、QOL が高いことなどを報告した。今回はカリエスリスクテストと質問紙調査と口腔診査から 8020 達成者の唾液緩衝能と唾液量、口腔衛生習慣の影響について調査し、8020 達成者は唾液緩衝能が高いこと、歯磨き回数は平均的で半数以上が歯周病症状を有したが、歯列が整い口腔清掃がし易い事、喫煙率が低い事、定期検診率が比較的高い事が歯の維持につながる可能性が推察された。

Gerodontology **22**(4), 206~210, 2005.

4) 矯正歯科臨床における予定外来院の実態調査について

水道橋病院矯正歯科と千葉病院矯正歯科における一年間の来院患者のうち、次回の予約をしているのにも関わらず、矯正装置の何らかの問題で予約を変更し、予定日より以前に来院した患者を予定外の来院患者として、担当医から事例のアンケート調査を行った。①予定外の来院患者の占める割合は、千葉病院矯正歯科の 1.4%に対して水道橋病院矯正歯科では 4.2%と高かった。②問題が生じた原因は、2 施設ともに不可抗力が最も多く、ヒューマンエラーによる要因が約 4 割であった。③来院の緊急度は、2 施設ともに緊急度の高いものと中等度のもので 70%以上を占めた。④来院理由の内容は、装置の脱落や逸脱が 2 施設ともに多かった。⑤起因した装置の種類は、アーチワイヤーが 2 施設ともに多かった。以上より、ヒューマンエラーを誘発させない環境を作り、事故に発展させない予防策を立案し、フィードバックさせることが予定外の来院の予防、再発防止につながると考えられた。

歯科学報 **106**(2), 97~104, 2006.

小児歯科学分野

1) 低年齢児の齲蝕処置内容—齲蝕罹患歯数および処置内容について—

歯科治療に適応することが困難であるとされ、乳歯萌出期にあたる 3 歳未満児の齲蝕罹患状態および処置の実態について把握することを目的に本調査を行った。東京歯科大学水道橋病院小児歯科に来院し、齲蝕処置を行った初診時年齢が 3 歳未満の幼児 138 名（男児 87 名、女児 51 名）を対象に調査を行った。

1. 来院経緯は「開業医からの紹介」と「紹介なし」での来院がそれぞれ 29.0%で最も多かった。
2. 対象児の齲蝕罹患歯数は合計 718 歯で 1 人平均 5.2 歯であった。各年齢での平均萌出歯数の半数以上が齲蝕に罹患している対象者も存在した。
3. 2 歳未満では重症齲蝕者が占める割合が多く、2 歳以降では齲蝕が軽症な者の割合が増加する傾向であった。

低年齢の齲蝕重症者は確実に存在し、専門医の治療が求められていることが明確となった。

小児歯誌 **44**(1), 118~23, 2006.

歯科麻酔学分野

1) 鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎形成術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する前向き研究 (A04-0500-10)

これまで 63 名を調査し、現在も調査中である。術中に採取された血液から、遺伝子型の解析を行っている。

示指氷水浸漬による疼痛感知潜時、フェンタニールの使用量に、個人差は認められている。また、特に実験の中断が必要なフェンタニール投与による副作用は見られず順調にサンプルは蓄積しており、実験方法に問題は無いと思われる。

2) 口腔顔面痛に対する漢方薬の応用(A01-0500-12)

本年度は、口腔顎顔面領域・慢性難治性疼痛性疾患における治療法の一手法を確立するため、中医学を修得・研究することを目的に中国・上海中医薬大学に留学した。

中医学とは日本でいう漢方医学のことである。最近、我が国においても漢方医学を中心とした東洋医学講座が設立され、臨床・教育・研究の場でその医学が活かされている。慢性疾患が蔓延している我が国にとっては、東洋医学講座の設立は自然な流れであると思われる。西洋医学は診断医学すなわち原因を追及する学問であるのに対し、東洋医学は患者の体質を改善し、抗病反応を賦活化させることに長じている。西洋医学の普及により最大の恩恵を受けたものが外科と救急である。しかし、複数の要因によって成り立つ慢性疾患に対しては不得手なところがある。反対に東洋医学は急性疾患には向かないが、副作用が少なく長期投与が可能で、慢性疾患に対して有効であることが多い。一人の患者を目前にしたときに、両医学の良いところを取り入れ、応用実践することが、患者の健康増進に貢献できると考えている。

平成16年度は、中医学の基礎を確認し、その臨床応用を修得した。また中医学の代表的な書、『傷寒雑病論』から痛みを考察した論文を書き、上海中医薬大学に提出した。機会を見て、発表する予定である。

口腔インプラント学分野

1) 歯科インプラント上部構造の力学特性の解明

インプラント上部構造をスクリュー固定する際のスクリュー締結順序がインプラント体に生じる歪み応力に及ぼす影響について、歪みゲージを応用した模型実験を実施した。インプラント上部構造として、下顎無歯顎を想定し、5本のインプラントを連結する設計とした。実験には、使用材料ならびに作製方法の異なる3種類の上部構造を使用した。上部構造をインプラント体に10Ncmで締結する際に、インプラント体上に設置されたアバットメント(粘膜貫通部)に生じるひずみを、5パターンの締結順序で5回ずつ計測した。

測定されたひずみの量にはばらつきを認めたが、締結順序ごとに優位な差は認められなかった。今後、測定された歪み量からアバットメントに生じたモーメントの傾向について分析を進める予定である。

学会発表：H. Sekine, J. E. Rubenstein, M. E. Tuttle:

Influence of the screw tightening sequence for strain generated on the abutment in fixing implants suprastructure, Academy of Osseointegration 21st Annual Meeting, March, 6~18, 2006.

2) 歯根膜受圧感覚特性の解明

歯根膜を有しない骨結合型インプラントの機能低下の程度を明らかにする目的で、歯根膜の受圧感覚特性を解明した。歯を介して歯根膜に機械刺激を与えた際の中枢の応答を、MEGを用いて体制感覚誘導磁場を観察した。その結果、歯根膜への機械刺激に対して3つのピークを持つ応答を第一次体制感覚野に認めた。一方、歯根膜への浸潤麻酔によりそれらの中枢応答が消失したことから、インプラントによる咬合再構成が施された場合にも、機械刺激に対する中枢応答の欠落が生じていることが推測された。

歯科学報 **105**(4), 345~346, 2005.

3) インプラント治療の臨床評価

従来、骨の不足によりインプラント治療の適用が困難と診断されていた症例に対して、腸骨移植を伴う上顎洞底挙上術を応用し、インプラント治療を適用した。短期の治療経過を、パノラマ X 線ならびに CT 画像により評価し、良好に経過していることを確認した。

歯科学報 **106**(1), 48~53, 2006.

Quintessence 別冊 インプラントイヤーブック 2006, 65~68, 2006.

総合歯科学分野

1) 総合診療の進め方の検討

総合診療を進めるにあたっては、①患者中心の診療を行うこと、②計画診療を行うこと、③診療の流れのパターンを作ることが必要である。そのためには一口腔単位での治療が必要であり、患者固有の硬組織及び軟組織の機能を重視した治療計画が必要となってくる。このように受診者来院時からの個々のステップをひとつひとつ検討し、機能回復を図るべく診療にあっている。

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
関根 秀志	歯科インプラント上部構造の力学特性の解明	ワシントン大学補綴学講座	Washington, U. S. A.	J. E. Rubenstein
福田 謙一	静脈内投与及び経口投与アデノシン三リン酸の鎮痛作用	ハーバーUCLA メディカルセンター麻酔科	U. S. A.	福永敦翁
笠原 正貴	安全で効率のよい低流量麻酔に用いる新しい呼吸回路の研究	ハーバーUCLA メディカルセンター麻酔科	U. S. A.	福永敦翁
福田 謙一	鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎骨切り術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する前向き研究	東京都精神医学総合研究所分子精神医学研究部門	東京	池田和隆
福田 謙一	帯状疱疹後神経痛の薬理学的疼痛機序判定に関する研究	東京大学医科学研究所	東京	林田眞和

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
三宅菜穂子	ゼータ電位による補綴材料およびアパタイト表面への唾液タンパク吸着性と吸着防止評価	文科省科研費・基盤研究 (C)

5. 研究活動の特記すべき事項

受賞

受賞者名	年月日	賞名	テーマ	学会・団体名
福田 謙一	2005. 10. 27	デンツプライ賞	歯科麻酔業務を医療経済を考える	日本歯科麻酔学会デンツプライジャパンリミテッド

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演題	学会名	開催地
宮崎 晴代	2005. 6. 11～12	咬合とQOLと8020	第21回東北矯正歯科学会	山形市
関根 秀志	2006. 10. 6	提示症例3 下顎無歯顎患者に対して即時荷重を試みた症例	第280回東京歯科大学学会(総会)インプラントシンポジウム	東京

6. 教育講演など教育に関する活動

教育講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
森山 貴史	2005. 4. 9	歯周病と全身疾患	東京歯科大学同窓会静岡県支部	静岡市
古澤 成博	2006. 4. 13	手術用顕微鏡を用いた歯科治療-特に歯内療法処置を中心に-	水道橋病院症例報告会	東京
柿澤 卓	2005. 4. 14	水道橋病院・口腔健康臨床科学講座開設と水道橋病院機能機構改革	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
高野 正行	2005. 4. 14	水道橋病院口腔外科の現状 - 連携を深めるために -	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
北浦 宏明	2005. 4. 14	抜歯中断症例の検討	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
上谷 史子	2005. 4. 14	早期口腔癌の診断について	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
高崎 義人 大山 定男 藤田 佳子 今井 崇之 高野 正行 柿澤 卓	2005. 4. 14	歯科治療後の神経麻痺	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
関根 秀志 田口 達夫 木村 哲也 飯島 俊一 椎貝 達夫 武田 孝之 瀬田 修一 高野 正行	2005. 4. 14	実物大臓器立体モデルによる手術計画	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
横山 葉子 柿澤 卓 高野 正行 今井 崇之 桑山 真寧 門田 崇 永井 嘉洋 渡辺 玲子 矢田 部賢一 海老原 環	2005. 4. 14	実物大臓器立体モデルの口腔外科臨床への応用	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
瀬田 修一 秋元 善次 高崎 義人 高野 正行 柿澤 卓 武田 孝之 飯島 俊一 椎貝 達夫 関根 秀志 田口 達夫	2005. 4. 14	上顎洞挙上術に関する検討ー移植骨性状による経時的骨量変化についてー	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
上谷 史子	2005. 4. 14	当科におけるスケルタルアンカレッジシステムに関する臨床的検討	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
高野 正行 柿澤 卓 高崎 義人 桑山 真寧 北浦 宏明	2005. 4. 14	早期舌癌および舌の口腔前癌病変におけるヨード・トルイジンブルー染色テストの有用性について	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
松井 隆	2005. 4. 14	保険請求上の注意点ー重箱のすみをつつつく・その4ー	第四回水道橋病院口腔外科症例報告会	東京
福田 謙一	2005. 4. 19~20	AED 講習会	東京歯科大学水道橋病院職員研修会	東京
福田 謙一	2005. 4. 23	歯科医のためのモニタリング講座	第16回日本臨床モニター学会・教育講演	東京
福田 謙一	2005. 7. 2	歯科麻酔診療の医療経済とリスクマネージメント	第20回北海道臨床歯科麻酔学会・招待講演	札幌
関根 秀志	2005. 7. 22	インプラント治療のスタンダードを考えるー米国歯科事情鑑みてー	東京歯科大学同窓会墨田支部平成17年度第1回学術講演会	東京
関根 秀志	2005. 9. 28	インプラントの現状と将来性	葛飾区歯科医師会平成17年度学術講演会	東京
福田 謙一	2005. 10. 19	口腔顔面痛みセンターとリラックス歯科治療外来	東京歯科大学同窓会千代田区支部学術講演会	東京

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
森山 貴史	2005. 11. 20	口臭治療の臨床	東京歯科大学同窓会三重県支部学術講演会	三重県津市
福田 謙一	2006. 3. 5	口腔顔面痛の診断と治療	東京歯科大学同窓会三重県支部学術講演会	三重県津市

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
井上 敬介	2004. 8. 6～7	第18回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ	参加者	千葉市
古澤 成博	2005. 5. 21～22	第17回東京歯科大学カリキュラムワークショップ	タスクフォース	千葉市
古澤 成博	2005. 8. 6～7	第18回東京歯科大学カリキュラムワークショップ	タスクフォース	千葉市
古澤 成博	2005. 11. 29～20	第19回東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ	タスクフォース	千葉市
古澤 成博	2006. 3. 11～12	平成18年度プログラム責任者プログラム副責任者のためのワークショップ	参加者	千葉市
古澤 成博	2006. 3. 16～17	臨床研修指導者のための講習会	参加者	和光市
細川 壮平	2005. 8. 6～7	第18回東京歯科大学カリキュラムワークショップ	参加者	千葉市
鈴木 道子	2005. 8. 6～7	第18回東京歯科大学カリキュラムワークショップ	参加者	千葉市
海老原 環	2005. 8. 6～7	第18回東京歯科大学カリキュラムワークショップ	参加者	千葉市
田口 達夫	2005. 8. 6～7	第18回東京歯科大学カリキュラムワークショップ	参加者	千葉市

共用試験等

氏名	年月日	種別	役割	開催地
近藤 祥弘	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	ST 責任者	東京
野呂 明夫	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	予備評価者	東京
森山 貴史	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	評価者	東京
鈴木 道子	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	回収・集計係	東京
松本 信哉	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	回収・集計係	東京
水戸部 明子	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	回収・集計係	東京
井田 篤	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	SP	東京
柿澤 卓	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	運営委員長	東京
高野 正行	2005. 7. 2	第9回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京

氏名	年月日	種別	役割	開催地
山 満	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	ST4 評価者	東京
高崎義人	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	誘導	東京
横山葉子	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	進行	東京
秋元善次	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	ST2 記録係	東京
瀬田修一	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	ST3 評価者	東京
関根秀志	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	運営委員長	東京
田口達夫	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	器材責任者	東京
松崎文頼	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	SP	東京
古澤成博	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	運営副委員長	東京
細川壮平	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	レスト・器材係	東京
小貫瑞穂	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	SP	東京
大迫美穂	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	SP	東京
飯田 聡	2005.7.2	第9回水道橋病院 OSCE	評価表集計	東京

1. 口腔健康臨床科学講座 1) 歯科保存学分野

論 文

1. 野呂明夫：くちびるの不思議な働き・口腔リハビリの必要性, 日歯東洋医学会誌 **24**(1・2), 70~76, 2005. 臨床

解 説

1. 森山貴史, 山田 了⁽¹⁾：エナメルマトリックスデリバティブ(エムドゲイン)を用いた骨内欠損治療の長期臨床経過:外科的リエントリーによる観察, Int J Periodontics Restorative Dent Japan **13**(3), 14~20, 2005. (1)保存II

その他

1. 森山貴史：電動歯ブラシの上手な使い方は?, クリニック Q&A(532), 26, 2005.
2. 野呂明夫：Tongue Movement Exercise とワシントンの歯科大学訪問, トウギャザー **132**(6), 2~3, 2005.
3. 野呂明夫：「口腔リハビリを国民運動に」熱く語る, トウギャザー **132**(6), 4, 2005.
4. 野呂明夫：閉塞型睡眠時無呼吸患者への口腔リハビリの評価, トウギャザー **133**(7), 2~4, 2005.

学会抄録

1. 野呂明夫, 細川壮平⁽¹⁾, 高橋潤一, 秋廣良昭⁽¹⁾, 槇石武美, 平井義人⁽²⁾：口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法(第5報)閉塞型睡眠時無呼吸患者への口腔リハビリの評価, 日歯保存誌 **48**(春季特別), 118, 2005.(2005年度日本歯科保存学会春季学会第122回, 札幌市)(1)口健臨・総合歯科,(2)保存III
2. 細川壮平⁽¹⁾, 野呂明夫, 高橋潤一, 秋廣良昭⁽¹⁾, 槇石武美, 平井義人⁽²⁾：口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法(第6報)口呼吸患者への応用と評価法, 日歯保存誌 **48**(春季特別), 119, 2005.(2005年度日本歯科保存学会春季学会第122回, 札幌市)(1)口健臨・総合歯科,(2)保存III
3. 吉田 隆, 有泉祐吾⁽¹⁾, 山口 恵⁽²⁾, 田野ルミ⁽³⁾, 古澤成博⁽⁴⁾, 高久 悟⁽²⁾, 田中丸治宣⁽¹⁾, 槇石武美：歯科衛生士教育機関における臨床実習について 特に学外診療補助実習, 日本歯科医学教育学会総会・学術大会抄録集, 94, 2005.(第24回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 徳島市)(1)静岡県立短大・歯科衛生,(2)埼玉県立短大・歯科衛生,(3)埼玉県歯科衛生士会,(4)口健臨・総合歯科
4. 磯山素子⁽¹⁾, 北村佳子⁽¹⁾, 茂木知子⁽¹⁾, 上島文江⁽¹⁾, 中浜典子⁽¹⁾, 荒木みさ子⁽¹⁾, 六川泰子⁽¹⁾, 高橋義一⁽²⁾, 槇石武美, 谷田部賢一⁽³⁾：航空関連会社における5年間の歯科集団検診の結果について, 歯科学報 **105**(5), 537, 2005.(第280回東京歯科大学学会総会, 千葉市)(1)東歯大・水病・歯衛,(2)社会歯,(3)口健臨・矯正科
5. 水戸部明子, 近藤祥弘, 渡部光弘⁽¹⁾, 森山貴史, 野呂明夫, 槇石武美：歯牙全長 1/2 の大きさを有する歯根嚢胞への非外科的アプローチ, 日歯保存誌 **48**(秋季特別), 126, 2005.(2005年度日本歯科保存学会秋季学術大会第123回, 東京)(1)福島県

6. 松本信哉, 野呂明夫, 渡部光弘⁽¹⁾, 森山貴史, 近藤祥弘, 槇石武美 : 意図的歯牙再植を行った症例, 日歯保存誌 **48**(秋季特別), 137, 2005.(2005年度日本歯科保存学会秋季学術大会第123回, 東京) (1)福島県
7. 吉田 隆, 有泉祐吾⁽¹⁾, 古澤成博⁽²⁾, 槇石武美 : 歯科衛生士教育機関における診療補助実習(第4報)臨床実習の教育機関別比較, 日歯保存誌 **48**(秋季特別), 193, 2005.(2005年度日本歯科保存学会秋季学術大会第123回, 東京) (1)静岡県立短大・歯科衛生学科,(2)口健臨・総合歯科
8. 森山貴史, 鈴木道子, 槇石武美 : EMDOGAIN を用いた root coverage の一症例, 日歯保存誌 **48**(秋季特別), 222, 2005.(2005年度日本歯科保存学会秋季学術大会第123回, 東京)

1. 口腔健康臨床科学講座 2) 総合歯科学分野

学会抄録

1. 野呂明夫⁽¹⁾, 細川壮平, 高橋潤一⁽¹⁾, 秋廣良昭, 槇石武美⁽¹⁾, 平井義人⁽²⁾: 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法(第5報)閉塞型睡眠時無呼吸患者への口腔リハビリの評価, 日歯保存誌 **48**(春季特別), 118, 2005.(2005年度日本歯科保存学会春季学会第122回, 札幌市) (1)口健臨・保存科,(2)保存III
2. 細川壮平, 野呂明夫⁽¹⁾, 高橋潤一⁽¹⁾, 秋廣良昭, 槇石武美⁽¹⁾, 平井義人⁽²⁾: 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法(第6報)口呼吸患者への応用と評価法, 日歯保存誌 **48**(春季特別), 119, 2005.(2005年度日本歯科保存学会春季学会第122回, 札幌市) (1)口健臨・保存科,(2)保存III
3. 小貫瑞穂, 寺田香織⁽¹⁾, 青木 聡: 顎機能障害を伴う骨格性Class I 叢生症例に対する歯軸整直治療について, 第23回日本顎咬合学会学術大会総会講演要旨集, 222, 2005.(第23回日本顎咬合学会学術大会総会, 東京) (1)東京都
4. 大迫美穂, 中山尚仁⁽¹⁾, 青木 聡: 顎機能障害を伴うAngle's Class2div.2 過蓋咬合症例に対する歯軸整直治療について, 第23回日本顎咬合学会学術大会総会講演要旨集, 222, 2005.(第23回日本顎咬合学会学術大会総会, 東京) (1)東京都
5. 吉田 隆⁽¹⁾, 有泉祐吾⁽²⁾, 山口 恵⁽¹⁾, 田野ルミ⁽³⁾, 古澤成博, 高久 悟⁽¹⁾, 田中丸治宣⁽²⁾, 槇石武美⁽⁴⁾: 歯科衛生士教育機関における臨床実習について 特に学外診療補助実習, 第24回日本歯科医学教育学会総会・学術大会抄録集, 95, 2005.(第24回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 徳島市) (1)埼玉県立短大・歯科衛生,(2)静岡県立短大・歯科衛生,(3)埼玉県歯科衛生士会,(4)口健臨・保存科
6. 杉戸博記⁽¹⁾, 古澤成博, 角田正健⁽¹⁾, 杉山利子⁽²⁾, 山倉大紀⁽³⁾, 一戸達也⁽⁴⁾, 外木守雄⁽⁵⁾, 石井拓男⁽⁶⁾, 佐藤 亨⁽⁷⁾, 山田 了⁽¹⁾, 小田 豊⁽⁸⁾, 井出吉信⁽⁹⁾: 第2学年病院実習と臨床研修歯科医の初期研修を組み合わせた新しい多目的カリキュラム, 第24回日本歯科医学教育学会総会・学術大会抄録集, 96, 2005.(第24回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 徳島市) (1)保存II,(2)保存III,(3)補綴III,(4)歯麻,(5)市病・オーラルメディスン,(6)社会歯,(7)補綴II,(8)理工,(9)解剖
7. 小貫瑞穂, 細川壮平, 大迫美穂, 渡部光弘⁽¹⁾, 飯田聡, 吉田 隆⁽²⁾, 古澤成博: 慢性化膿性根尖性歯周炎に意図的再植法を行った症例について, 歯科学報 **105**(5), 540, 2005.(第280回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)福島県,(2)口健臨・保存科
8. 吉田 隆⁽¹⁾, 有泉祐吾⁽²⁾, 古澤成博, 槇石武美⁽³⁾: 歯科衛生士教育機関における診療補助実習(第4報)臨床実習の教育機関別比較, 日歯保存誌 **48**(秋季特別), 193, 2005.(2005年度日本歯科保存学会秋季学術大会第123回, 東京) 脳科学研 (1)埼玉県立短大・歯科衛生,(2)静岡県立短大・歯科衛生,(3)口健臨・保存科

1. 口腔健康臨床科学講座 3) 歯科補綴学分野

その他

1. 三宅菜穂子：ゼータ電位による補綴材料およびアパタイト表面への唾液タンパク吸着性と吸着防止評価，平成 17 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)17592045)研究実績報告書, 2006. 細形研

学会抄録

1. 富田友美子⁽¹⁾，三宅菜穂子，石川博美⁽²⁾：ラット唾液腺の脂質プロファイル，第 44 回日本油化学会年会講演要旨集, 123, 2005.(第 44 回日本油化学会年会, 横浜市) A-89-0120-1 生素研 実動施設 (1)生化学,(2)文教大・教育
2. 富田友美子⁽¹⁾，三宅菜穂子，山中すみへ⁽²⁾：ラットの唾液腺中脂質成分の加齢による変化，口腔衛会誌 **55**(4), 324, 2006.(第 54 回日本口腔衛生学会・総会, 東京) 生素研 実動施設 (1)生化学,(2)衛生
3. 瀬田修一⁽¹⁾，椎貝達夫⁽²⁾，武田孝之⁽²⁾，飯島俊一⁽²⁾，田口達夫⁽²⁾，関根秀志⁽²⁾，井上敬介，長谷川洋人，鈴木道子⁽³⁾，秋元善次⁽¹⁾，高崎義人⁽¹⁾，高野正行⁽¹⁾，柿澤 卓⁽¹⁾：Immediate LoadingとEarly Loadingに関する研究—埋入トルク値とISQ値(Osstell)の計測から—第 2 報，日口腔インプラント誌 **19**(1), 104, 2006.(第 35 回口腔インプラント学会総会, 弘前市) (1)口健臨・口外科,(2)口健臨・口腔インプラント科,(3)口健臨・保存科
4. 小田 豊⁽¹⁾，下野正基⁽²⁾，佐藤 亨⁽³⁾，村松 敬⁽²⁾，松坂賢一⁽⁴⁾，三宅菜穂子，服部雅之⁽¹⁾，高橋 賢⁽⁵⁾，太田一正⁽⁶⁾：唾液腺房細胞の活性化の機序に及ぼすレーザーの影響，平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 21～22, 2006.(平成 17 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC5A03 細形研,分子生研 (1)理工,(2)病理,(3)補綴II,(4)臨検査,(5)保存III,(6)生化学

1. 口腔健康臨床科学講座 4) 小児歯科学分野

論 文

1. 望月清志：第三大臼歯・その存在の意義と功罪-活かし方を中心に-第三大臼歯の存在と歯列不正の関連性について-, 歯科学報 **105**(2), 79~83, 2005. 総説
2. 大多和由美, 辻野啓一郎, 望月清志, 薬師寺 仁⁽¹⁾, 武田友孝⁽²⁾, 石上恵一⁽²⁾ : Sturge-Weber症候群児にカスタムメイドタイプ・マウスガードを応用した1例, 小児歯誌 **43**(3), 469~476, 2005. 症例 (1)小児歯,(2)スポーツ歯
3. Mochizuki,K., Fujii,H.⁽¹⁾, Mizuguchi,Y.⁽²⁾, Machida,Y.⁽³⁾, Yakushiji,M.⁽³⁾ : Tetracycline-tooth interaction: An elemental analysis from prenatal period to early childhood, Ped Dent J **16**(1), 43~49, 2006. 原著 (1)千葉県,(2)東京都,(3)小児歯
4. 辻野啓一郎, 金子かおり, 坪倉亜希子, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 低年齢児の齲蝕処置内容 -齲蝕罹患歯数および処置内容について-, 小児歯誌 **44**(1), 18~23, 2006. 臨床 (1)小児歯

学会抄録

1. 辻野啓一郎, 金子かおり, 坪倉亜希子, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 低年齢児の齲蝕処置内容について 第1報 患児別にみた齲蝕罹患歯数,処置内容について, 小児歯誌 **43**(2), 251, 2005.(第43回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台市) (1)小児歯
2. 辻野啓一郎, 金子かおり, 坪倉亜希子, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 低年齢児の齲蝕処置内容について 第2報 歯種別にみた処置内容,修復方法について, 小児歯誌 **43**(2), 252, 2005.(第43回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台市) (1)小児歯
3. 坪倉亜希子, 金子かおり, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 大学病院小児歯科来院患者の定期検診に関する意識調査, 小児歯誌 **43**(2), 291, 2005.(第43回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台市) (1)小児歯
4. 金子かおり, 坪倉亜希子, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 大学病院小児歯科における低年齢児初診患児の実態調査, 小児歯誌 **43**(2), 292, 2005.(第43回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台市) (1)小児歯
5. 大多和由美, 辻野啓一郎, 望月清志, 野村 仰⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 薬師寺 仁⁽²⁾, 森山憲一⁽³⁾ : 地域保健センターと大学病院の病診連携による対応が有効であった症例, 障害者歯 **26**(3), 467, 2005.(第22回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 甲府市) (1)歯麻,(2)小児歯,(3)東京都
6. 谷田部純子⁽¹⁾, 福田謙一⁽¹⁾, 辻野啓一郎, 塚越完子⁽²⁾, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾ : 精神発達遅滞を伴うPierre Robin 症候群の全身麻酔下の歯科治療経験, 障害者歯 **26**(3), 561, 2005.(第22回日本障害者歯科学会総会・学術大会, 甲府市) (1)口健臨・麻酔科,(2)都立豊島病院・歯口外,(3)歯麻

7. Mochizuki,K., Tsujino,K., Ootawa,Y., Yakushiji,M.⁽¹⁾ : The fusion of bilateral maxillary and mandibular primary incisors, Int J Paediatr Dent. **15**(Suppl.2), 36, 2005.(20th Congress of the Internationao Association of Pediatric Dentistry, Sydney, Australia) (1)小児歯

1. 口腔健康臨床科学講座 5) 歯科矯正学分野

論 文

1. 竹内史江⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾, 平井基之⁽²⁾, 佐藤晃一⁽²⁾ : Dental Prescale を用いた 8020 達成者の咬合調査, 歯科学報 **105**(2), 154~162, 2005. 原著 (1)矯正,(2)東京都
2. Miyazaki,H., Motegi,E.⁽¹⁾, Yatabe,K., Yamaguchi,H.⁽¹⁾, Maki,Y.⁽²⁾ : A study of occlusion in elderly Japanese over 80 years with at least 20 teeth, Gerodontology **22**(4), 206~210, 2005. 原著 (1)矯正,(2)衛生
3. 西村文邦⁽¹⁾, 坂本輝雄⁽¹⁾, 末石研二 : Hemifacial Microsomiaの表情筋および咀嚼筋活動の特性, 歯科学報 **105**(4), 383~397, 2005. 原著 (1)矯正
4. 宮崎晴代 : 咬合とQOLと8020, 東北矯正歯科学会誌 **13**(1), 43~49, 2005. 臨床
5. Masubuchi,M.⁽¹⁾, Sueishi,K., Sakamoto,T.⁽¹⁾, Negishi,F.⁽¹⁾, Yamaguchi,H.⁽¹⁾ : Orthodontic evaluation of eight cases in Beckwith-Wiedemann syndrome, Orthod Waves **65**(1), 9~14, 2006. 原著 (1)矯正

学会抄録

1. 宮崎晴代, 伊藤明子⁽¹⁾, 坂本輝雄⁽²⁾, 吉村亮子, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽²⁾, 田中潤一⁽³⁾, 西村二郎⁽⁴⁾ : 両側性唇顎口蓋裂患者の10年に及んだ矯正治療の一例, 日口蓋裂会誌 **30**(2), 205, 2005.(第29回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京) 脳科学研 (1)千葉県,(2)矯正,(3)都立大塚病院・口腔科,(4)埼玉県立小児医療センター・形成外科
2. 荒川忠博⁽¹⁾, 安藤智博⁽¹⁾, 末石研二, 扇内秀樹⁽¹⁾ : 東京女子医科大学学生における歯科矯正に関するアンケート調査, 日口腔科会誌 59 回抄集, IV-55, 2005.(第59回日本口腔科学会総会, 徳島市) (1)東女医大・口外
3. Miyazaki,H., Ebihara,T., Hayashi,M., Sueishi,K., Yatabe,K., Kakizawa,T.⁽¹⁾ : Tooth loss of patients who visited our hospital for orthodontic treatment, World J Orthod **6**, 237, 2005.(6th International Orthodontic Congress, LAS VEGAS, USA) (1)口健臨・口外科
4. 末石研二, 安部輝美, 宮崎晴代, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾ : 20歳代後半に初めて矯正歯科治療をうけた左側唇顎口蓋裂の1症例, 日口蓋裂会誌 **30**(2), 206, 2005.(第29回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 東京) (1)矯正
5. Sakamoto,T.⁽¹⁾, Sueishi,K., Harazaki,M.⁽¹⁾, Yamaguchi,H.⁽¹⁾ : Application of interalveolar distraction osteogenesis (IDO) in CLP treatment, American association of orthodontists 105th annual session, 98, 2005.(American association of orthodontists 105th annual session, San Francisco, USA) (1)矯正
6. Sueishi,K., Sakamoto,T.⁽¹⁾, Yamaguchi,H.⁽¹⁾ : Orthodontic treatment of the impacted teeth in the cleidocranial dysplasia —It's validity and difficulty—, Eur Orthod Soc, 53, 2005.(81st Congress of the European Orthodontic Society, Amsterdam, Netherlands) (1)矯正

7. 林 正樹, 末石研二, 海老原環, 宮崎晴代, 谷田部賢一, 野嶋邦彦⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における予定外来院の実態調査, 歯科学報 **105**(3), 281, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)矯正
8. 小坂竜也⁽¹⁾, 坂本輝雄⁽¹⁾, 末石研二, 荒川幸雄⁽²⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 個性正常咬合における咀嚼運動終末部の 3 次元評価, 歯科学報 **105**, 256, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)矯正,(2)東京都
9. 長谷部利一⁽¹⁾, 末石研二: 下顎前歯空隙歯列を伴う骨格性下顎前突症例, 第 64 回東京矯正歯科学会大会プログラム(4), 2005.(第 64 回東京矯正歯科学会大会, 東京) (1)東京都
10. 宮崎晴代, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾: 8020 達成者の口腔と全身の健康に関する研究, 日矯正歯会 64 回抄集, 130, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 千葉市) (1)矯正
11. 茂木悦子⁽¹⁾, 菊地 悠⁽¹⁾, 篠 珠美⁽¹⁾, 勝村さくら⁽¹⁾, 金成暢⁽¹⁾, 大峽 潤⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 宮崎晴代, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 松田一郎⁽²⁾: 側面頭部X線規格写真分析による 8020 達成者の顎顔面形態について, 日矯正歯会 64 回抄集, 143, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 横浜市) (1)矯正,(2)千葉県
12. 海老原環, 林 正樹, 宮崎晴代, 末石研二, 谷田部賢一: 小臼歯 4 本抜歯で矯正治療を行った 24 歯治験例の咬合圧分布について, 日矯正歯会 64 回抄集, 215, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 横浜市)
13. 林 正樹, 末石研二, 海老原環, 宮崎晴代, 谷田部賢一, 野嶋邦彦⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 歯科大学病院矯正歯科における予定外来院の比較検討, 日矯正歯会 64 回抄集, 215, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 横浜市) (1)矯正
14. 大峽 潤⁽¹⁾, 伊藤誠⁽¹⁾, 井上恵実, 竹井邦男, 宮原理子⁽¹⁾, 横瀬太志⁽²⁾, 根岸史郎⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: ABO の客観的評価システムを用いた東京歯科大学の研修医による治療結果の検討, 日矯正歯会 64 回抄集, 222, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 横浜市) (1)矯正,(2)東京都
15. 大峽 潤⁽¹⁾, 伊藤誠⁽¹⁾, 井上恵実, 竹井邦男, 宮原理子⁽¹⁾, 横瀬太志⁽²⁾, 根岸史郎⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: ABO の客観的評価システムを用いた長期リテンションケースの評価, 日矯正歯会 64 回抄集, 223, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 横浜市) (1)矯正,(2)東京都
16. 荒川忠博⁽¹⁾, 末石研二, 福井健之⁽¹⁾, 海老原環, 扇内秀樹⁽¹⁾: 下顎頭形態と顎顔面形態及び不正咬合との関連について, 日矯正歯会 64 回抄集, 258, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 横浜市) (1)東女医大・口外
17. 末石研二, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾: 片側性III級の 2 症例 下顎片側抜歯とインプラントアンカーの比較, 日矯正歯会 64 回抄集, 277, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 横浜市) (1)矯正
18. 小坂竜也⁽¹⁾, 坂本輝雄⁽¹⁾, 末石研二, 山口秀晴⁽¹⁾: 下顎切歯点における咀嚼運動終末部の 3 次元解析, 日矯正歯会 64 回抄集, 305, 2005.(第 64 回日本矯正歯科学会大会, 横浜市) (1)矯正

1. 口腔健康臨床科学講座 6) 口腔外科学分野

論 文

1. 大鶴 洋⁽¹⁾, 田邊陽子⁽²⁾, 高久勇一朗, 柿澤 卓, 斉藤美香⁽³⁾, 山口雅庸⁽³⁾, 田代 浩⁽⁴⁾ : 下顎智歯抜去後の知覚鈍麻を初発症状とした多発性骨髄腫の1例, 歯科学報 **106**(1), 38~42, 2006. 症例 (1)独立行政法人国立病院機構東京医療センター歯科口腔外科,(2)帝京・医・歯口外,(3)東京都老人医療センター・歯口外,(4)国立がんセンター・歯口外
2. 関根秀志⁽¹⁾, 瀬田修一, 高野正行, 柿澤 卓, 武田孝之⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾ : 左右側に異なる上顎洞底挙上術を用いてインプラント治療を行った一症例, 歯科学報 **106**(1), 48~53, 2006. 症例 (1)口健臨・口腔インプラント科

単行図書

1. 櫻井 薫⁽¹⁾, 石井拓男^{(2)(a)}, 井出吉信^{(3)(b)}, 松井 隆^(c) : 著分担 :POSによる歯科診療録の書き方 (a)教育改革の流れと大学における診療録書き方指導 16~17 頁,(b)口腔解剖の名称と記載要領 86~92 頁,(c)処方ならびに処方せんへの書き方 97~101 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005. (1)補綴I,(2)社会歯,(3)解剖
2. 高野正行(a): 著分担 :臨床歯科医のステップアップ研修(I)リスクを持つ歯へのアプローチ (a)智歯 123~142 頁, ヒョーロン, 東京, 2005.

プロシーディングス

1. Takasaki,Y. : Sensory Disturbance after Sagittal Splitting Ramus Osteotomy, Journal of the Korean association of oral & maxillofacial surgeons **31**(1), 22, 2005.(the 46th congress of the Korean association of oral & maxillofacial surgeons, Korea)

学会抄録

1. 今井崇之, 桑山真寧, 永井嘉洋, 渡辺玲子, 秋元善次, 横山葉子, 高野正行, 柿澤 卓, 海老原環⁽¹⁾, 谷田部賢一⁽¹⁾, 関根秀志⁽²⁾ : 実物大臓器立体モデルの口腔外科臨床への応用, 歯科学報 **105**(3), 273, 2005.(第279回東京歯科大学学会, 千葉市) (1)口健臨・矯正科,(2)口健臨・口腔インプラント科
2. 田口達夫⁽¹⁾, 関根秀志⁽¹⁾, 木村哲也⁽¹⁾, 飯島俊一⁽¹⁾, 椎貝達夫⁽¹⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 瀬田修一, 鈴木道子⁽²⁾, 井上敬介⁽³⁾, 長谷川洋人⁽³⁾, 安達 康⁽³⁾ : 東京歯科大学水道橋病院口腔インプラント科における診療状況, 歯科学報 **105**(3), 279, 2005.(第279回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)口健臨・口腔インプラント科,(2)口健臨・保存科,(3)口健臨・補綴科
3. 小島圭子, 風岡亜樹子, 小幡恵美, 鈴木福代, 関根亜理紗, 桑山真寧, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 西條みのり⁽¹⁾ : 東京歯科大学水道橋病院におけるクリニカル・パスへの取り組みと現状, 歯科学報 **105**(3), 261, 2005.(第279回東京歯科大学学会, 千葉市) (1)口健臨・麻酔科
4. Takano,M., Kakizawa,T., Yama,M., Takasaki,Y., Akimoto,Y. : Clinical evaluation of postoperative stability of locking plate/screw system for sagittal splitting ramus osteotomy, J Oral Maxillofac Surg **34**(Suppl 1), 103, 2005.(17th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery, Austria) CD-ROM

5. Takasaki,Y., Ohyama,S., Fujita,Y., Kitakura,H., Akimoto,Y., Takano,M., Kakizawa,T. : Therapeutic effects of stellate ganglion block on sensory disturbance following inferior alveolar nerve injury, J Oral Maxillofac Surg **34**(Suppl 1), 106, 2005.(17th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery, Austria) CD-ROM
6. 高久勇一郎, 今井崇之, 瀬田修一, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎智歯抜歯後に発生したオトガイ神経知覚障害についての臨床的検討, 日口腔科会誌 **54**(4), 541, 2005.(第 59 回日本口腔科学会総会, 徳島市)
7. 渡辺玲子, 柿澤 卓, 高野正行, 山 満, 高崎義人, 横山葉子, 瀬田修一, 高久勇一郎, 関根亜理紗, 福田謙一⁽¹⁾, 笠原正貴⁽¹⁾ : 当科における顎骨髄炎の臨床的統計, 日口腔科会誌 **54**(4), 576, 2005.(第 59 回日本口腔科学会総会, 徳島市) 脳科学研 (1)口健臨・麻酔科
8. 大山定男, 柿澤 卓, 高野正行, 高崎義人, 秋元善次, 桑山真寧, 橋本貞充⁽¹⁾, 嶋 香織⁽¹⁾ : 右側オトガイ孔部に発生した外傷性神経腫の 1 例, 日口腔外会誌 **51**(Suppl), 152, 2005.(第 50 回日本口腔外科学会総会, 大阪市) (1)病理
9. 高野正行, 柿澤 卓, 高崎義人, 桑山真寧, 北浦宏明, 藤田佳子 : 口腔カンジダ症に対する唾液中マンナン抗原の高感度検査の有用性, 日口腔外会誌 **51**(suppl), 116, 2005.(第 50 回日本口腔外科学会総会, 大阪市)
10. 秋元善次, 柿澤 卓, 高野正行, 松井 隆, 山 満, 高崎義人, 横山葉子, 瀬田修一, 北浦宏明, 永井嘉洋 : 治療中断で紹介を受けた症例の臨床統計学的検討, 日口腔外会誌 **51**(suppl), 119, 2005.(第 50 回日本口腔外科学会総会, 大阪市)
11. 前田憲昭⁽¹⁾, 加藤真吾⁽²⁾, 田中理恵⁽¹⁾, 池田正一⁽¹⁾, 樋口勝規⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 泉福英信⁽¹⁾, 宇佐美雄司⁽¹⁾ : 唾液中のHIV-RNA測定方法の評価, 日エイズ会誌 **7**(4), 411, 2005.(第 19 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市) (1)HIV感染症の歯科治療に関する研究,(2)慶応義塾大学医学部 微生物学免疫学教室
12. 桑山真寧, 中田こずえ, 北浦宏明, 上谷史子, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 当科における顎矯正手術クリニカルパスの導入について -バリエーションマネジメントによるパスの改訂につて-, 日顎変形誌 **15**(3), 204, 2005.(第 15 回日本顎変形症学会総会, 徳島市)
13. 関根亜理紗, 藤田佳子, 桑山真寧, 秋元善次, 高野正行, 柿澤 卓 : Le Fort I 型骨延長術および下顎枝矢状分割術を施行した Marfan 症候群の 1 例, 日顎変形誌 **15**(3), 207~208, 2005.(第 15 回日本顎変形症学会総会, 徳島市)
14. 藤田佳子, 関根亜理紗, 桑山真寧, 北浦宏明, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎枝矢状分割術後における知覚障害の長期経過例に関する臨床的検討, 日顎変形誌 **15**(3), 209, 2005.(第 15 回日本顎変形症学会総会, 徳島市)
15. 伊藤哲平, 柿澤 卓, 高野正行, 横山葉子, 桑山真寧, 北浦宏明, 藤田佳子 : 難治性潰瘍を伴った口腔カンジダ症の 1 例, 日口腔外会誌, 10, 2005.(第 180 回日本口腔外科学会関東地方会, 東京)
16. 高久勇一郎, 高野正行, 柿澤 卓, 藤田佳子, 松坂賢一⁽¹⁾, 橋本貞充⁽²⁾ : 小児の下顎骨に発生したAggressive fibromatosisの 1 例, 日本口腔腫瘍学会プログラム・抄録集, 110, 2006.(第 24 回日本口腔腫瘍学会総会, 北九州市) (1)臨検査,(2)病理

17. 瀬田修一, 椎貝達夫⁽¹⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 飯島俊一⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾, 関根秀志⁽¹⁾, 井上敬介⁽²⁾, 長谷川洋人⁽²⁾, 鈴木道子⁽³⁾, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : Immediate LoadingとEarly Loadingに関する研究—埋入トルク値とISQ値(Osstell)の計測から—第2報, 日口腔インプラント誌 **19**(1), 104, 2006.(第35回日本口腔インプラント学会総会, 弘前市) (1)口健臨・口腔インプラント科,(2)口健臨・補綴科,(3)口健臨・保存科
18. 藤田佳子, 関根亜理紗, 桑山真寧, 北浦宏明, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎枝矢状分割法術後における知覚障害の長期経過例に関する臨床的検討, 第10回口腔顔面神経機能学会プログラム, 2, 2006.(第10回口腔顔面神経機能学会, 東京) 脳科学研
19. 大山定男, 柿澤 卓, 高野正行, 高崎義人, 秋元善次, 桑山真寧, 橋本貞充⁽¹⁾, 嶋 香織⁽¹⁾ : 右側オトガイ孔部に生じた外傷性神経腫の1例, 第10回口腔顔面神経機能学会プログラム, 5, 2006.(第10回口腔顔面神経機能学会, 東京) (1)病理
20. 高崎義人 : 口腔顎顔面領域の感覚異常を主訴とした患者さんが来院した時の対応について—インプラントによる下歯槽神経損傷例への対応—, 第10回口腔顔面神経機能学会プログラム, 12, 2006.(第10回口腔顔面神経機能学会, 東京)

1. 口腔健康臨床科学講座 7) 歯科麻酔学分野

論 文

1. 福田謙一, 平山 明⁽¹⁾, 杉山あや子⁽²⁾, 塚越完子⁽³⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽⁴⁾, 金子 譲⁽⁴⁾: 歯科治療前のSpO₂ 測定により誤嚥性肺炎の早期発見につながった脊髄小脳変性症の2症例, 日歯麻会誌 **33**(2), 287~288, 2005. 症例 (1)千葉県,(2)墨東病院・歯口外,(3)豊島病院・歯口外,(4)歯麻
2. 福永敦翁⁽¹⁾, 林田眞和⁽²⁾, 福田謙一, 櫻井 学⁽³⁾: 麻酔領域におけるアデノシン化合物の応用, 日本麻酔・薬理学会誌 **17**(1), 9~11, 2005. 臨床 (1)UCLA大・医学部,(2)東大・医科学研究所附属病院手術部,(3)歯麻
3. 林田眞和⁽¹⁾, 福永敦翁⁽²⁾, 福田謙一: 急性痛とアデノシン化合物, 日本麻酔・薬理学会誌 **17**(1), 12~14, 2005. 臨床 (1)東大・医科学研究所附属病院手術部,(2)UCLA大・手術部
4. 福田謙一, 林田眞和⁽¹⁾, 福永敦翁⁽²⁾: 慢性痛とアデノシン化合物, 日本麻酔・薬理学会誌 **17**(1), 15~18, 2005. 臨床 (1)東大・医科学研究所附属病院手術部,(2)UCLA大・医学部
5. Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukuda,K., Fukunaga,A.⁽²⁾: Clinical application of adenosine and ATP for pain control, J Anesth **19**(3), 225~235, 2005. 総説 (1)東大・医科学研究所附属病院手術部,(2)UCLA大・医学部
6. 谷田部純子, 福田謙一, 齋田菜緒子, 綱川和美, 西條みのり, 笠原正貴, 宮地建次⁽¹⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾: 全身麻酔の不安に対する麻酔情報提供の効果, 日歯麻会誌 **33**(5), 705~708, 2005. 臨床 (1)東京都,(2)歯麻
7. 半田俊之⁽¹⁾, 高北義彦, 谷田部純子, 齋田菜緒子, 綱川和美, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 下顎枝矢状分割術の術後疼痛に対するフルルビプロフェン静注の先制鎮痛効果について, 日歯麻会誌 **33**(5), 709~713, 2005. 臨床 (1)歯麻
8. 福田謙一, 笠原正貴, 西條みのり, 林田眞和⁽¹⁾, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾: 歯科治療後知覚神経障害による医事紛争, 日臨麻会誌 **25**(7), 696~701, 2005. 臨床 (1)東大・医科学研究所附属病院手術部,(2)歯麻
9. 谷田部純子, 福田謙一, 高北義彦, 大野建州⁽¹⁾, 間宮秀樹⁽¹⁾, 半田俊之⁽¹⁾, 西條みのり, 笠原正貴, 服部 清⁽²⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: プロポフォールを使用した肥満患者の全身麻酔 3 症例, 日歯麻会誌 **33**(2), 289~290, 2006. 症例 (1)歯麻,(2)静岡市歯と口の健康支援センター
10. 齋田菜緒子, 福田謙一, 長束智晴⁽¹⁾, 金子完子⁽²⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾: Williams症候群患者の歯科治療時の全身麻酔経験, 日歯麻会誌 **33**(5), 734~735, 2006. 原著 (1)心身障害者口腔保健センター,(2)豊島病院・歯口外,(3)歯麻

解 説

1. 福田謙一, 林田眞和⁽¹⁾: 顎骨の痛み, ペインクリニック **26**(8), 1074~1079, 2005. (1)東大・医科学研究所附属病院手術部

2. 福田謙一, 金子 謙⁽¹⁾: 感じてますか?患者さんの「痛み」, デンタルハイジーン **25**(9), 875~891, 2005. (1)歯麻

単行図書

1. 笠原正貴(a),(b),(c): 著分担 :臨床家のための 舌診のすべて—東洋医学・西洋医学の融合— (a)13.その他の口腔粘膜病変⑧ 扁平苔癬 112~113 頁,(b)13.その他の口腔粘膜病変⑧ 白板症 114~115 頁,(c)13.その他の口腔粘膜病変⑧ アフタ性口内炎 116~117 頁, 医歯薬出版, 東京都, 2005.

プロシーディングス

1. 福田謙一 : 第 5 回歯科医のためのモニタリング講座「障害者歯科センターの立場から」, 臨床モニター **16**, 50, 2005.(第 16 回 日本臨床モニター学会総会, 東京)
2. 福田謙一 : 歯科麻酔科診療の医療経済とリスクマネジメント, 第 20 回北海道臨床歯科麻酔研究会 プログラム講演内容抄録, 2005.(第 20 回北海道臨床歯科麻酔研究会, 札幌市)
3. 福田謙一, 笠原正貴, 西條みのり, 半田俊之⁽¹⁾, 村松 淳, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 謙⁽¹⁾: 東京歯科大学水道橋病院歯科麻酔科・口腔顔面痛みセンターにおけるペインクリニックの現状, 歯界展望 (特別), 360, 2005.(第 20 回日本歯科医学会総会, 横浜市) (1)歯麻
4. 福田謙一 : リラックス歯科治療外来と口腔顔面痛みセンター, 茨城県歯科医学会誌 **13**, 74~77, 2005.(第 13 回茨城県歯科医学会, 水戸市)
5. Hayashida,M.⁽¹⁾, Ikeda,K.⁽²⁾, Fukuda,K., Tagami,M.⁽³⁾, Nagashima,M.⁽³⁾, Sato,Y.⁽³⁾, Ohgai,Y.⁽²⁾, Arita,H.⁽⁴⁾, Hanaoka,K.⁽⁴⁾: Acute postoperative pain management : past, present, and future, 8 th Biennial Congress of the Asian & Oceanic Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine, 15~19, 2005.(8 th Biennial Congress of the Asian & Oceanic Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine, Chiba, Japan) (1)東大・医科学研究所附属病院手術部,(2)財団法人東京都医学研究機構東京都精神医学総合研究所,(3)東邦大・佐倉病院,(4)東大・医学部附属病院・麻酔

その他

1. 笠原正貴 : 留学報告 上海中医薬大学, 日歯麻会誌 **33**(2), 338~341, 2005.
2. 福田謙一 : AED(自動式体外除細動器)の設置, 水道橋畔発(2), 2005.

学会抄録

1. 福田謙一 : 第 5 回歯科医のためのモニタリング講座「障害者歯科センターの立場から」, 臨床モニター **16**, 50, 2005.(第 16 回日本臨床モニター学会総会, 東京)
2. 福田謙一, 笠原正貴, 西條みのり, 半田俊之⁽¹⁾, 松木由起子⁽¹⁾, 村松 淳, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 謙⁽¹⁾: 抜髄後異常痛を再考する, 第 6 回口腔顔面懇談会 第 10 回 The Japan Academy of Orofacial Pain 共催学術集会抄録集, 36, 2005.(第 6 回口腔顔面懇談会 第 10 回 The Japan Academy of Orofacial Pain 共催学術集会, 岡山市) (1)歯麻

3. 半田俊之⁽¹⁾, 松木由起子⁽¹⁾, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 妊娠中の不安定な精神状態が歯痛を増悪させたと考えられる一症例, 日ペインクリニック会誌 **12**(3), 267, 2005.(第 39 回日本ペインクリニック学会, 宇都宮市) (1)歯麻
4. 稲川元明⁽¹⁾, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: QOLを著しく低下させるほどの開口障害を主訴に来院した悪性関節リウマチ患者の治療経験, 日ペインクリニック会誌 **12**(3), 292, 2005.(第 39 回日本ペインクリニック学会, 宇都宮市) (1)歯麻
5. 西條みのり, 福田謙一, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 疼痛コントロールに難渋している幻歯痛の一症例, 第 22 回関東臨床歯科麻酔懇話会プログラム, 7, 2005.(第 22 回関東臨床歯科麻酔懇話会, 東京) (1)歯麻
6. 福田謙一, 谷田部純子, 齋田菜緒子, 西條みのり, 綱川和美, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 下顎孔伝達麻酔施行直後に局所麻酔薬中毒発症が疑われた 1 症例, 第 22 回関東臨床歯科麻酔懇話会プログラム, 7~8, 2005.(第 22 回関東臨床歯科麻酔懇話会, 東京) (1)歯麻
7. 福田謙一: 歯科麻酔科診療の医療経済とリスクマネジメント, 第 20 回北海道臨床歯科麻酔研究会 プログラム・講演内容抄録, 18~19, 2005.(第 20 回北海道臨床歯科麻酔研究会, 札幌市)
8. 田村洋平⁽¹⁾, 綱川和美, 谷田部純子, 齋田菜緒子, 半田俊之⁽¹⁾, 西條みのり, 笠原正貴, 福田謙一, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 東京歯科大学水道橋病院歯科麻酔科外来の動向(平成 14 年 4 月~平成 17 年 3 月)特にリラックス歯科治療外来について, 歯科学報 **105**(3), 264, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)歯麻
9. Sakurai,S.⁽¹⁾, Fukunaga,A.⁽²⁾, Kasahara,M., Fukuda,K., Koukita,Y., Kubo,K.⁽¹⁾, Ichinohe,T.⁽¹⁾, Kaneko,Y.⁽¹⁾, Okazaki,K.⁽³⁾: A simple low-flow anesthetic gas delivery system that really minimizes anesthetic gas consumption. A conversion anesthetic gas delivery circle CO2 absorption system (F-conomy,type 1), A anesthetic consumption comparison between a constant vaporizer setting technique vs a vaporizer adjustment technique using the conventional circle system, A integrated anesthetic gas saving system for low flow anesthesia (F-conomy,type 2), The association for low flow anaesthesia annual scientific meeting, 2005.(The association for low flow anaesthesia annual scientific meeting, Bristol,England) (1)歯麻,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)横浜市大・医・麻酔
10. 谷田部純子, 福田謙一, 辻野啓一郎⁽¹⁾, 塚越完子⁽²⁾, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾: 精神発達遅滞を伴うPierre Robin 症候群の全身麻酔下の歯科治療経験, 障害者歯 **26**(3), 561, 2005.(第 22 回日本障害者歯科学会総会・学術大会, 甲府市) (1)口健臨・小児歯科,(2)都立豊島病院・歯口外,(3)歯麻
11. 齋田菜緒子, 福田謙一, 金子完子⁽¹⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾: Williams症候群患者の歯科治療時の全身麻酔経験, 日歯麻会誌 **33**(4), 596, 2005.(第 33 回 日本歯科麻酔学会総会・学術大会, 鹿児島市) (1)豊島病院・歯口外,(2)歯麻
12. 平山 明⁽¹⁾, 福田謙一, 杉山あや子⁽²⁾, 高北義彦, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾: 歯科治療前に自律神経症状を呈した脊髄小脳変性症の 2 症例, 日歯麻会誌 **33**(4), 610, 2005.(第 33 回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 鹿児島市) (1)千葉県,(2)墨東病院・歯口外,(3)歯麻

13. 谷田部純子, 福田謙一, 櫻井 誠⁽¹⁾, 綱川和美, 齋田菜緒子, 西條みのり, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: ミダゾラム至適鎮静量事前予測に関する検討—アルコール感受性、処置前の不安、ベンゾジアゼピン系薬剤常用はミダゾラム至適鎮静量に影響するか—, 日歯麻会誌 **33**(4), 625, 2005.(第33回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 鹿児島市) (1)歯麻
14. 福田謙一, 谷田部純子, 櫻井誠⁽¹⁾, 綱川和美, 齋田菜緒子, 西條みのり, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 長期ベンゾジアゼピン系薬剤服用によるはミダゾラム至適鎮静量の変化, 日歯麻会誌 **33**(4), 625, 2005.(第33回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 鹿児島市) (1)歯麻
15. 半田俊之⁽¹⁾, 高北義彦, 西條みのり, 笠原正貴, 福田謙一, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: アデノシン三リン酸の術後3時間持続静注は術後痛に有効である, 日歯麻会誌 **33**(4), 629, 2005.(第33回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 鹿児島市) (1)歯麻
16. 綱川和美, 福田謙一, 谷田部純子, 齋田菜緒子, 高北義彦, 杉山あや子⁽¹⁾, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾: フェンタニルの一回静脈内投与は量依存性に咳を発現させる, 日歯麻会誌 **33**(4), 633, 2005.(第33回 日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 鹿児島市) (1)都立墨東病院・歯口外,(2)歯麻
17. 渡辺玲子⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 山 満⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 横山葉子⁽¹⁾, 瀬田修一⁽¹⁾, 高久勇一朗⁽¹⁾, 関根重理紗⁽¹⁾, 福田謙一, 笠原正貴: 当科における顎骨骨髓炎の臨床的統計, 日口腔科会誌 **54**(4), 576, 2005.(第59回日本口腔科学会総会, 徳島市) 脳科学研 (1)口健臨・口外科
18. 平山 明⁽¹⁾, 斎藤 浩⁽¹⁾, 小川育宏⁽¹⁾, 吉田真有美⁽¹⁾, 川村正樹⁽¹⁾, 上野博康⁽¹⁾, 鏡 宣昭⁽¹⁾, 花澤康雄⁽¹⁾, 斎藤浩司⁽¹⁾, 三浦和成⁽¹⁾, 菊池章宏⁽¹⁾, 倉沢良典⁽¹⁾, 奥仲伸弥⁽¹⁾, 前川達雄⁽¹⁾, 宍倉邦明⁽¹⁾, 出川博美⁽²⁾, 福田謙一, 一戸達也⁽³⁾, 金子 譲⁽³⁾: 当施設における障害者日帰り全身麻酔下歯科治療に対する保護者アンケート調査, 障害者歯 **26**(3), 426, 2005.(第22回日本障害者歯科学会総会・学術大会, 甲府市) (1)千葉県,(2)財団法人千葉市保健医療事業団,(3)歯麻
19. 田村洋平⁽¹⁾, 半田俊之⁽¹⁾, 福田謙一, 綱川和美, 谷田部純子, 齋田菜緒子, 西條みのり, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 歯科治療に対する不安および恐怖を有する患者の背景因子の検討—Corah Dental Anxiety Scale を用いて—, 日歯麻会誌 **33**(4), 99, 2005.(第33回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 鹿児島市) (1)歯麻
20. 久保浩太郎⁽¹⁾, 福永敦翁⁽²⁾, 櫻井 学⁽¹⁾, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾: 新しい麻酔ガス節約システム—F-conomy Type I System—の検討, 第9回日本医療ガス学会抄録集, 29, 2005.(第9回日本医療ガス学会, 東京) (1)歯麻,(2)UCLA Harbor Medical Center

1. 口腔健康臨床科学講座 8) 口腔インプラント学分野

論 文

1. 関根秀志, 瀬田修一⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 武田孝之, 田口達夫 : 左右側に異なる上顎洞底挙上術を用いてインプラント治療を行った一症例, 歯科学報 **106**(1), 48~53, 2006. 症例 (1)口健臨・口外科

学会抄録

1. 田口達夫, 関根秀志, 椎貝達夫, 飯島俊一, 武田孝之, 安達 康⁽¹⁾, 長谷川洋人⁽¹⁾, 井上敬介⁽¹⁾ : 水道橋病院口腔インプラント科における診療状況, 歯科学報, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) 脳科学研 (1)口健臨・補綴科
2. 田口達夫, 関根秀志, 木村哲也, 飯島俊一, 椎貝達夫, 武田孝之, 瀬田修一⁽¹⁾, 鈴木道子⁽²⁾, 井上敬介⁽³⁾, 長谷川洋人⁽³⁾, 安達 康⁽³⁾ : 東京歯科大学水道橋病院口腔インプラント科における診療状況, 歯科学報 **105**(3), 279, 2005.(第 279 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)口健臨・口外科,(2)口健臨・保存科,(3)口健臨・補綴科
3. 瀬田修一⁽¹⁾, 椎貝達夫, 武田孝之, 飯島俊一, 田口達夫, 関根秀志, 井上敬介⁽²⁾, 長谷川洋人⁽²⁾, 鈴木道子⁽³⁾, 秋元善次⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾ : Immediate LoadingとEarly Loadingに関する研究—埋入トルク値とISQ値(Ostell)の計測から—第 2 報, 日口腔インプラント会誌 **19**(1), 104, 2006.(第 35 回口腔インプラント学会総会, 弘前市) (1)口健臨・口外科,(2)口健臨・補綴科,(3)口健臨・保存科

2. 眼 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	ビッセン宮島弘子	固視像および瞳孔径観察可能なビデオ pupillometer の開発 (A01-0791-2)
助 手	鈴木 高佳	LASIK 後の iron line の発生率および共焦点生体顕微鏡像による発生部位の検討
助 手	浅賀 理恵	難治性ドライアイに対する確実な涙点閉鎖術

2. 成果の概要

1) 固視像および瞳孔径観察可能なビデオ pupillometer の開発 (A01-0791-2)

眼科において、瞳孔径は、視力を始めとする視機能に重要な要素である。しかし、明るさ、精神状態、固視距離などにより常に大きさが変動しているため、実際の瞳孔径を計測することは非常に困難であった。今回、開発された赤外線ビデオ瞳孔径は、被検者が物を見ている状態で、オンタイムに測定できる特徴がある。すでに正常人における年齢別の明室および暗室での遠方視、近方視時の瞳孔径を測定した。コントロールができたので、さらに白内障手術による瞳孔径への影響を同条件下で測定し、術後には暗室の状態での瞳孔径が統計学的に有意に小さくなっていることが証明された。次のステップとして、眼内レンズ挿入眼における瞳孔径と視力との関係をみていく予定である。

2) LASIK 後の iron line の発生率および共焦点生体顕微鏡像による発生部位の検討

研究テーマの背景や方法、観察結果などの概要は、昨年度の報告を参照されたい。今年度の成果であるが、昨年までの研究成果や国内および海外学会での発表をベースに引き続き海外学術雑誌投稿に向けて研究データの正確性と整合性のチェック、考察の推敲、投稿する雑誌の最終選択、投稿規定への準拠、参考文献の整理と選択、共同研究者間での回覧と訂正など、さらに最終段階の作業が進行中である。今年度早期の投稿、掲載を目標に作業を完成させる予定である。

3) 難治性ドライアイに対する確実な涙点閉鎖術

シェーグレン症候群やスティーブンス・ジョンソン症候群の難治性ドライアイ症例で涙点プラグ無効例（脱落、肉芽形成など）もしくは従来の涙点閉鎖術にて再疎通した9例18眼に対して新型パクレン（Alcon社製 Optemp II V）にて涙点閉鎖術を行い、安全性と有効性について検討した。術後矯正遠見視力の著明な改善およびシルマースコアおよびフルオレセインスコアも上昇した。また眼瞼の変形等の合併症も認めなかった。新型パクレンによる涙点閉鎖術は角膜所見の改善と涙液安定性の上昇により有効であると思われた。今後は従来型パクレンとの比較、涙点縫合を併用した場合との比較などさらに検討する予定である。

3. 研究活動の特記すべき事項

受賞

受賞	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2006. 3. 20	フィルムフェスティバル Special Interest 部門第一位	19th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery	San Francisco, U. S. A.

オーガナイザー

オーガナイザー	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2005. 10. 8	LASIK 2	第59回日本臨床眼科学会 PC 講演	札幌市
ビッセン宮島弘子	2006. 1. 27	QOV の追求 非球面眼内レンズの最新評価	第29回日本眼科手術学会 総会ランチョンセミナー	東京
ビッセン宮島弘子	2006. 1. 28	白内障	第29回日本眼科手術学会 総会ビデオ講演	東京
ビッセン宮島弘子	2006. 3. 21	Cataract IOLs: Capsular Bag, Fixation Challenges	19th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery	San Francisco, U. S. A.

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2005. 5. 14	Bimanual Phacoemulsification : Steps to acquire its technique.	ISRS/AAO : Emerging trends in Refractive and cataract surgery	Hong Kong, China
ビッセン宮島弘子	2005. 6. 17	出そろった各種レンズとその 評価基準	第20回日本眼内レンズ屈 折手術学会シンポジウム	京都市
ビッセン宮島弘子	2006. 3. 28	ReSTOR in Japanese eyes	The 2006 Aspen invitational refractive symposium	Aspen, U. S. A

学会招待講演

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2005. 6. 4	眼内レンズインプラント	第 279 回東京歯科大学学 会例会特別講演	千葉市
ビッセン宮島弘子	2005. 6. 17	New generation multifocal IOLs	第 20 回日本眼内レンズ 屈折手術学会 Asia Refractive-Cataract Update	京都市
ビッセン宮島弘子	2005. 6. 17	目指すはアクネ (アテネ)	第 20 回日本眼内レンズ 屈折手術学会 Asia Refractive-Cataract Update	京都市
ビッセン宮島弘子	2005. 6. 17	2.0mm 角膜創からの PEA+IOL	第 20 回日本眼内レンズ 屈折手術学会イブニング セミナー	京都市
ビッセン宮島弘子	2005. 6. 18	白内障手術におけるヒアルロン酸	第 20 回日本眼内レンズ 屈折手術学会ランチョン セミナー	京都市
ビッセン宮島弘子	2005. 6. 18	極小切開手術	第 20 回日本眼内レンズ 屈折手術学会特別企画	京都市
ビッセン宮島弘子	2005. 10. 14	Optical quality of cornea in PRK, LASIK, LASEK	American Academy of Ophthalmology subspecialty day	Chicago, USA
ビッセン宮島弘子	2006. 1. 27	ガチフロキサシン点眼による術 前滅菌化 - 術前 30 分～1 時間前 の抗菌薬点眼の効果 -	第28回日本眼科手術学会 イブニングセミナー	東京
ビッセン宮島弘子	2006. 1. 28	海外最新情報にみる、将来のす がた	第28回日本眼科手術学会 ランチョンセミナー	東京
ビッセン宮島弘子	2006. 1. 29	極小切開白内障手術	第28回日本眼科手術学会 アフタヌーンセミナー	東京

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演等

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2005. 6. 25	LASIK と Phakic IOL —今後の動向—	第 4 回北海道角膜セミナー	札幌市
ビッセン宮島弘子	2005. 8. 23	LASIK 手術の実際	レーザー屈折矯正の基礎	東京
ビッセン宮島弘子	2005. 11. 19	白内障手術と屈折矯正手術 の新しい動き	平成 17 年度東濃眼科医会	多治見市

講演者	年月日	演 題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2005. 11. 26	Phakic IOL の現状と今後の可能性	第 12 回九州山口屈折矯正手術研究会特別講演	福岡市
ビッセン宮島弘子	2006. 1. 15	極小切開白内障手術	茨城県眼科医会学術講演会プログラム	水戸市
ビッセン宮島弘子	2006. 1. 21	白内障手術アップデート	第 272 回熊本県眼科医会研修会	熊本市
ビッセン宮島弘子	2006. 2. 19	Refractive Cataract Surgery の新しい局面ー今の持ち手でどこまでできるかー	第 3 回 ODAIBA Basic Clinical Ophthalmology Series	東京

論 文

1. Bissen-Miyajima,H., Minami,K.⁽¹⁾, Miyake-Kashima,M., Taira,Y.⁽²⁾, Nakamura,M.⁽¹⁾ : Observation of the corneal flap interface with metal particles in rabbit model, J Cataract Refractive Surg **31**(7), 1409~1413, 2005. 原著 (1)参天製薬,(2)埼玉県
2. ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳 : バイマニュアル水晶体超音波乳化吸引術における灌流量とリーク量, 眼科手術 **18**(4), 551~554, 2005. 原著

解 説

1. ビッセン宮島弘子 : 屈折矯正手術の王道;LASIK の基礎, Pharm Med **23**(7), 19~22, 2005.
2. ビッセン宮島弘子 : 屈折矯正手術 ABC No.2 百聞は一見にしかず, 3i 角膜診療(2), 8, 2005.
3. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子 : マルチフォーカルIOLによる老視治療, あたらしい眼科 **22**(8), 1049~1053, 2005.
4. ビッセン宮島弘子 : 特殊な眼内レンズ, IOL&RS **19**(3), 297~301, 2005.
5. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子 : 強度近視眼に対する屈折矯正手術:Wavefront-guided LASIK vs 有水晶体眼内レンズ, あたらしい眼科 **22**(9), 1225~1226, 2005.
6. ビッセン宮島弘子 : 眼内レンズインプラント, 歯科学報 **105**(3), 460~461, 2005.
7. ビッセン宮島弘子 : 各論:眼科各疾患、検査のマネージメントの実際 1)角結膜疾患-(4)屈折矯正手術 術後の過矯正と低矯正に対するリスク管理と対処法について教えてください, あたらしい眼科 **22**(臨増), 94~96, 2006.

単行図書

1. ビッセン宮島弘子(a): 著分担 :眼内レンズを科学する (a)各種眼内レンズの特徴 多焦点眼内レンズ 68~69 頁, メディカル葵出版, 東京, 2006.

学会抄録

1. Bissen-Miyajima,H., Ohnuma,K.⁽¹⁾, Taira,Y.⁽²⁾ : Model eye analysis of Acrysof ReStor IOL, 18th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, #39105, 2005.(18th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, Washington DC, USA) on-line, available from (<http://www.ascrs.org/meetings/>) (1)千葉大・工・情報画像,(2)埼玉県
2. Suzuki,T., Bissen-Miyajima,H., Ohnuma,K.⁽¹⁾ : Clinical results of wavefront-guided LASIK and phakic IOL implantation in high myopia, 18th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, #39774, 2005.(18th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, Washington DC, USA) on-line, available from (<http://www.ascrs.org/meetings/>) (1)千葉大・工・情報画像

3. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 大木伸一 : LASIK 術後リグレーション例に対する β 遮断薬点眼有効例と非有効例の検討, 第 20 回眼内レンズ屈折手術学会抄録集, 51, 2005.(第 20 回日本眼内レンズ屈折手術学会, 京都市)
4. ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳, 本田理恵 : 新しいスリーブを用いた小切開白内障手術, 第 20 回眼内レンズ屈折手術学会抄録集, 61, 2005.(第 20 回日本眼内レンズ屈折手術学会, 京都市)
5. Bissen-Miyajima,H., Suzuki,T., Honda,R. : Small incision surgery with a newly developed ultra sleeve, 23rd Congress of the European Society of Cataract and Refractive Surgeons Book of Abstracts, 14, 2005.(23rd European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Lisbon, Portugal)
6. Bissen-Miyajima,H., Ohnuma,K.⁽¹⁾, Taira,Y.⁽²⁾ : Visual quality with new generation multifocal IOL under different condition, 23rd Congress of the European Society of Cataract and Refractive Surgeons Book of Abstracts, 14, 2005.(23rd European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Lisbon, Portugal) (1)千葉大・工・情報画像,(2)埼玉県
7. Suzuki,T., Bissen-Miyajima,H., Honda,R. : The use of topical beta-blocker in the management of regression following LASIK for myopia, 23rd Congress of the European Society of Cataract and Refractive Surgeons Book of Abstracts, 113, 2005.(23rd European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Lisbon, Portugal)
8. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子 : 後房型有水晶体眼内レンズ(PRL)挿入後 2 年の臨床成績, 第 59 回臨眼学会抄録集, 240, 2005.(第 59 回日本臨床眼科学会, 札幌市)
9. ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳, 平容子⁽¹⁾, 大沼一彦⁽²⁾ : モデル眼を用いた新しい回折型多焦点眼内レンズ挿入後の画像, 第 59 回臨眼学会抄録集, 257, 2005.(第 59 回日本臨床眼科学会, 札幌市) (1)埼玉県,(2)千葉大・工・情報画像
10. 大木伸一, ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳 : Wavefront-guided LASIK において解析結果に度数調整した例の検討, 第 59 回臨眼学会抄録集, 315, 2005.(第 59 回日本臨床眼科学会, 札幌市)
11. 本田理恵, ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳, 大木伸一, 大沼一彦⁽¹⁾ : 遠方および近方視での瞳孔径, 第 59 回臨眼学会抄録集, 400, 2005.(第 59 回日本臨床眼科学会, 札幌市) (1)千葉大・工・情報画像
12. ビッセン宮島弘子, 大沼一彦⁽¹⁾, 平容子⁽²⁾ : 屈折型、回折型多焦点IOL挿入モデル眼における距離別画像コントラストと瞳孔径の影響, 眼科手術 **19**(臨増), 69, 2006.(第 29 回日本眼科手術学会, 東京) (1)千葉大・工・情報画像 (2)埼玉県
13. 浅賀理恵, ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳, 大木伸一, 大沼一彦⁽¹⁾ : 白内障手術適応患者の瞳孔径, 眼科手術 **19**(臨増), 110, 2006.(第 29 回日本眼科手術学会, 東京) (1)千葉大・工・情報画像
14. Bissen-Miyajima,H. : In vitro activity of ophthalmic viscosurgical devices during phacoemulsification, 19th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, #74406, 2006.(19th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, San Francisco, USA) on-line, available from (<http://www.ascrs.org/meetings/>)
15. Bissen-Miyajima,H., Shimazaki,J.⁽¹⁾ : A 10-years revolution in cataract surgery and surgical reconstruction of ocular surface in Stevens-Johnson syndrome, ASCRS ASOA 2006 Symposium & Congress Final Program, 126, 2006.(19th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, San Francisco, USA) (1)市病・眼科

16. Bissen-Miyajima, H. : Refractive surgery in Japan and Asia, Klinische Monatsblätter für Augenheilkunde **223**(S1), S14, 2006.(20th Kongress der Deutschsprachigen Gesellschaft für Intraokularlinsen- Implantation und refraktive Chirurgie, Heidelberg, Germany)

3. 内 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

助 教 授 仁 科 牧 子 パーキンソン病における認知機能

2. 成果の概要

パーキンソン病においては、その病期にかかわらず様々な認知機能障害が生じることが認められている。

今までにYahr II度のパーキンソン病患者で人の顔の認知過程を視覚誘発磁場の測定により検討し、正常群に比し課題遂行時のMEG応答の潜時は有意差なかったものの、振幅は脳全体にわたって有意に大きくなっていることを報告した。特に後頭葉に認められる早期の応答は大きく、後期処理になればなるほど、つまり前頭葉に近づくほど正常との解離は小さくなった。パーキンソン病では右後頭葉の血流低下が認められており、皮質下における神経ネットワークの異常を皮質で代償している可能性がある。しかし、治療の影響も否定できず、現在は病初期の未治療の段階での検討を考慮中である。

論 文

1. 仁科牧子, 西田次郎⁽¹⁾, 蔵本千夏⁽²⁾, 原口孝之⁽²⁾, 山根源之⁽²⁾: 高齢者の義歯治療が、視聴覚認知機能に及ぼす影響 皮質誘発磁場と神経心理テストを用いた検討, 歯科学報 **105**(4), 343～344, 2005. 原著 (1)市病・消化器科,(2)市病・オーラルメディシン

単行図書

1. 高野伸夫⁽¹⁾(a),(b),(c), 松浦由美子⁽²⁾(e), 松浦信幸⁽²⁾(f), 間宮秀樹⁽²⁾(g), 一戸達也⁽²⁾(e),(f),(h), 仁科牧子(d): 著分担 : 来院時から急変時まで 患者さんの全身管理 救急処置・AEDの実践 CD-ROM付 (a)消化管疾患 35～37 頁,(b)肝疾患 38～41 頁,(c)腎疾患 42～45 頁,(d)脳神経疾患 60～68 頁,(e)臨床症状の診方 82～96 頁,(f)検査データの読み方 72～81 頁,(g)モニタリングの基本 97～113 頁,(h)「Primary ABCD Survey」を身につける 167～169 頁, 医歯薬出版, 東京, 2005. (1)口外,(2)歯麻

その他

1. 岡田 聡⁽¹⁾, 仁科牧子, 森下鉄夫⁽¹⁾: 多発性筋炎の筋線維障害機序におけるgranulysinの重要性について, 臨床神経学 **45**(12), 1204, 2005. (1)市病・内科

学会抄録

1. 佐藤暁幸⁽¹⁾, 仁科牧子, 野川 茂⁽¹⁾, 森下鉄夫⁽¹⁾, 岡田 聡⁽¹⁾: 病初期に尿閉を呈した単純ヘルペス脳髄膜炎の 1 例, 臨神経, 2006.(第 176 回日本神経学会関東地方会, 東京) 脳科学研 (1)市病・内科